

大島町復興町民会議 元町地区復興まちづくり分科会報告（第1回～8回）

1. 開催概要

■毎週木曜日 18:00 開催

	開催日時	検討事項	資料	参加者
第1回	平成26年 5月8日（木） 19時～21時30分	① 策定委員会委員紹介 ② 個別ヒアリング結果報告 ③ 今後の進め方	・元町地区復興まちづくり分科会 検討事項 ・大島町被災者個別ヒアリング（第1回）概要報告	分科会委員42人 復興計画策定委員会 中林委員長 饗庭委員 市古委員
第2回	平成26年 5月15日（木） 18時～21時20分	① 東京都の土砂災害対策について	・東京都の土砂災害対策について	分科会委員44人 都大島支庁 土木課長・土砂災害対策担当課長
第3回	平成26年 5月22日（木） 18時～20時45分	① 被災者住宅再建と元町地区まちづくりについて ② グループワーク ③ 各グループでの検討事項について ④ その他	・住宅再建に活用できる支援の紹介	分科会委員36人 復興計画策定委員会 中林委員長 市古委員
第4回	平成26年 5月29日（木） 18時～20時15分	① 第3回分科会のふりかえり ② グループワーク ③ 各グループでの検討事項について ④ その他	・第3回分科会 検討のまとめ ・住宅再建フロー	分科会委員27人
第5回	平成26年 6月19日（木） 18時～20時40分	① 第4回分科会のふりかえり ② 大金沢流路改修案について ③ ゾーン別復興まちづくりの方向性について ④ グループワーク ⑤ 各グループでの検討事項の発表 ⑥ その他	・第4回分科会 検討のまとめ ・元町地区復興まちづくりの方向性（案）	分科会委員41人 復興計画策定委員会 中林委員長 東京都河川部・大島支庁
第6回	平成26年 7月3日（木） 18時～20時	① 第5回分科会のふりかえり ② 報告事項 ・Cゾーン個別ヒアリング結果について ・防災まちづくり分科会、産業・観光復興支援分科会中間報告 ③ 良好な市街地形成に向けて（意見交換） ④ 今後の進め方について ⑤ その他	・第5回分科会 検討のまとめ ・復興町民会議 防災まちづくり分科会報告、産業・観光復興支援分科会中間報告	分科会委員25人 復興計画策定委員会 饗庭委員 市古委員 都大島支庁 土木課長・総務課長・土砂災害対策担当課長

	開催日時	検討事項	資料	参加者
第7回	平成26年 8月1日(金) 18時～20時	① 前回分科会における意見交換の確認 ② 復興計画素案について ③ 元町地区の復興まちづくり計画(B、Cゾーン検討の進め方)について ④ 今後のスケジュールについて ⑤ その他	・第6回元町地区復興まちづくり分科会 検討のまとめ ・元町地区の復興まちづくりの進め方フロチャート ・元町地区の復興まちづくり計画(B、Cゾーン検討の進め方)	分科会委員23人 都大島支庁 土木課長・総務課長・土砂災害対策担当課長・港湾課長
第8回	平成26年 9月8日(月) 18時～20時	① 前回分科会における意見交換の確認 ② 復興計画案について ③ 元町地区の復興まちづくり計画のイメージについて ④ 今後のスケジュールについて ⑤ その他	・第7回元町地区復興まちづくり分科会 検討のまとめ ・元町地区の復興まちづくり構想 ・流路改修と町道整備のイメージ ・町道整備による課題と対応策(案) ・まちづくりのエリア毎の対応(案)	分科会委員22名 都大島支庁 土木課長・総務課長・土砂災害対策担当課長・港湾課長

2. 主な意見等

	テーマ	主な意見等
第1回	個別ヒアリング	・神達地区内の無被害の住民へのヒアリングは行わないか ・被害現場を見ながらの聞き取りも行っていきたい
	今後の進め方	・ある程度、前提となる条件を提示してもらわないと、話し合いが進まない ・安心して暮らすためには、大金沢の流路改修などの検討も必要 ・長期避難世帯なども分科会に参加してほしい
	その他	り災証明の判断基準 ・査定する人によって判断が異なるようなので、判断基準を明確にしてほしい 生活再建支援への要望 ・二重ローン対策、被災者のペット対応も入れてほしい
第2回	大金沢流路	・被災者が安心できる改修を行ってほしい ・流路の改修計画を早期に示してほしい ・他の沢に分担して大金沢の水量の負荷を軽減してほしい
	橋の改修	・流木がつかまらないように改修すべき
	土砂災害対策全般	・梅雨に向けた応急対策の根拠資料を提示してほしい ・仮設導流堤は不安なので計画を見直してほしい ・梅雨に向けて応急対策を迅速に進めてほしい
	道路の冠水対策	・道路(都道・町道)の排水能力を改善してほしい ・電力施設が冠水しないようにして災害時の電力確保対策をとってほしい
	その他	・町、都で一つのチームとして窓口を一本化して要望に対応してほしい
第3回	○3つのグループに分かれて、以下のテーマでワークショップ形式の意見交換を実施 ①移転希望者の多いAゾーン、Bゾーンの土地利用をどのように考えますか？ ②堆積工から河口まで、流路にどのような不安がありますか？ ③住宅再建、生活再建について、どのような要望がありますか？ <代表的な意見> ① A・Bゾーン : 住むには不安が大きい。住めないのが公有地化して欲しい。 住めるなら住みたい。住んでいる人の意見が大事。 公園や緑地、産業振興に利用できないか。 安全確保のため土砂を受け止める場所等に活用できないか。	

	② Cゾーン : 大金沢流路の改修（拡幅・水深を深くする・線形を緩やかにするなど） 遊歩道・管理道路・緑地帯の設置など 現状では、住宅再建の方向性が出せない ③ 住宅・生活再建：いずれの地域でも、住んでいい場所かどうかわからない、という意見 （行政側で決めてほしい） 被災した土地の買い取り 被災事業者への支援	
第4回	○家の上・神達・丸塚一帯（Aゾーン、Bゾーン）、大金沢流路周辺（Cゾーン）、元町2・3丁目一帯（Dゾーン）のグループに分かれて、以下のテーマでワークショップ形式の意見効果を実施（各設問ごとに、ゾーン別の特性や悩み等について伺う） ①生活再建について、どのようなご要望がありますか？ ②住宅再建を考える上で、何がネックとなっていますか？ ③ゾーンごとの土地利用についてどのようにお考えになりますか？ ＜班ごとのまとめ＞ ① A・Bゾーン：住む（事業継続）には、周辺環境の整備が必要 その上で、被害が甚大だった場所は公的施設として整備して欲しい ② Cゾーン：行政の計画が示されない段階で、住宅再建は考えられない ③ Dゾーン：このまま生活の拠点として、住み続ける地域として確認 その上で、流路改修や道路排水能力の向上で、安心して住める対策を希望	
第5回	○3つのグループに分かれて、以下のテーマでワークショップ形式の意見交換を実施 ①大金沢流路の整備のあり方について ②Cゾーンのまちづくりの方向性について ＜代表的な意見＞ ① 大金沢流路の改修：両側に管理用通路を確保することで今よりは安心できる 流木がつかまらないように橋の整備も必要 既存の生活道路がなくなると宅地への出入りができなくなる 流路両側や丸塚橋から上流にも散策路となる道路が必要ではないか 災害を学ぶことのできる施設としても利用したい 個別ヒアリングで流路沿川の方の意向把握が必要 地権者の気持ちを第一にすべき ② Cゾーンのまちづくり：移転先の宅地を確保してほしい 被災した土地を売却したい 避難経路や避難タワーなど津波対策も必要 河川改修だけでなく面的なまちづくりを検討し、住宅再建と流路の安心整備を一体的に進める必要がある	
第6回	良好な市街地形成に向けて	・機能性だけでなく、デザイン性を取り入れてほしい。 ・弘法浜に衛生上の影響がでないように、流路に流す生活排水の浄化をしてほしい。 ・元町港周辺を今風のまちなみにして、島内の各地域は特有の個性を活かしたまちなみにすると、何度も訪れたい島になる。 ・流路沿いをランニングコースにできるように整備すると、スポーツ選手なども呼び込むことができ、まちの活性化につながる。 ・椿、大島桜、カンゾウ、スカシユリなど大島の植物や植生を用いて流路沿いを整備し、大島らしいまちになるとよい。 ・デザイン性を検討する前提として、どのようなお客様を島に呼び込むか、どんな島にするかを検討する必要がある。 ・「良好な」とは、住みやすいという良好なのか、観光に良好なのか、子ども達にとって良好なのか、いろいろな観点がある。
	まちづくりの取組みについて	・学生や企業などを呼び込んで、まちづくりコンペを開催してはどうか。 ・まちづくりについて町民が話し合う場を継続して確保してほしい。 ・まちづくりが具体的に決まっていく過程について、教えてほしい。 ・ジオパーク推進の一環として、学会などへの働きかけや防災教育に取り組んでいる。
	復興推進に必要なこと	・激甚災害指定により、復興まちづくりの予算はどのくらい確保されているか。 ・島全体に活性化に向けて、事業者の再建支援を行ってほしい。

		・行政の復興担当職員は、継続して復興業務にあたってほしい。 ・移転用地の資料など、具体的に住宅再建に有益な資料を提示してほしい。 ・公園整備や区画整理事業などを活用して被災した土地を利用することができるようにして、土地の価値をあげてほしい。
	その他	・わからない言葉が多いので、わかりやすく説明してほしい。 ・ひとりひとりの意見に対して、事務局からの回答がほしい。
第7回	復興計画素案について	○被災者生活再建支援 ・子どもたちへの就学支援の対象を拡大してほしい。 ・被災者生活再建支援金の支給期間を延伸してほしい。 ・横断的で、ある程度の権限のある職員を配置した実効性ある総合相談窓口としてほしい。 ○地域基盤・インフラの復旧 ・浅い層の地下水を考慮した土砂災害対策を検討してほしい。 ・被災者が安心して住める裏づけとなるよう、雨水排水対策を推進してほしい。 ・災害対策はわかりやすく広く住民に周知してほしい。 ・最近発生した土砂災害の教訓も土砂災害対策に反映してほしい。 ○産業・観光復興支援 ・中小企業の再建支援を充実させてほしい。
	元町地区の復興まちづくり計画について	・大金沢流路改修のタイムテーブルを教えてほしい。
第8回	復興計画案について	○復興計画と大島町基本構想・計画との関連性 ・「本復興計画で定めた方針などの一部を見直すことがある」と記載されているが、いつ、誰が、どのように見直しを行うのか。町民の意見を反映してほしい。 ○防災まちづくりの強化 ・土砂災害防止法に基づく特別警戒区域は、神達地区のようにオープンスペースを中心とした土地利用を図るゾーンにも指定されるのか。 ・土砂災害防止法に基づく特別警戒区域など土砂災害の危険のあるところは、現在人家が無くても、住民にしっかり周知することが必要である。 ・追悼式は継続するか。また、発災した10月16日を、今後、どのように取り扱っていくのか。忘れてはならない日として検討してほしい。 ○元町地区の復興まちづくり計画 ・心が和み、災害を思い出すことにはなってもがんばっていこうと思えるような景観整備を行ってほしい。 ○復興まちづくりの推進組織 ・元町地区の復興まちづくりを推進する組織は、いつから設置されるか教えてほしい。 ・個々に説明したり意向を確認したりすることはあっても、それぞれの意見をうやむやにしないで、きちんと復興まちづくりに反映してほしい。
	元町地区の復興まちづくり計画のイメージについて	○大金沢流路沿いの町道について ・町道の安全対策をしっかりと講じてほしい。 ・町道整備の具体的な実施計画は何時ごろ明らかになるか教えてほしい。 ○メモリアル公園について ・今ある献花台なども復興まちづくりの中で整備してほしい。

第7回元町地区復興まちづくり分科会 検討のまとめ

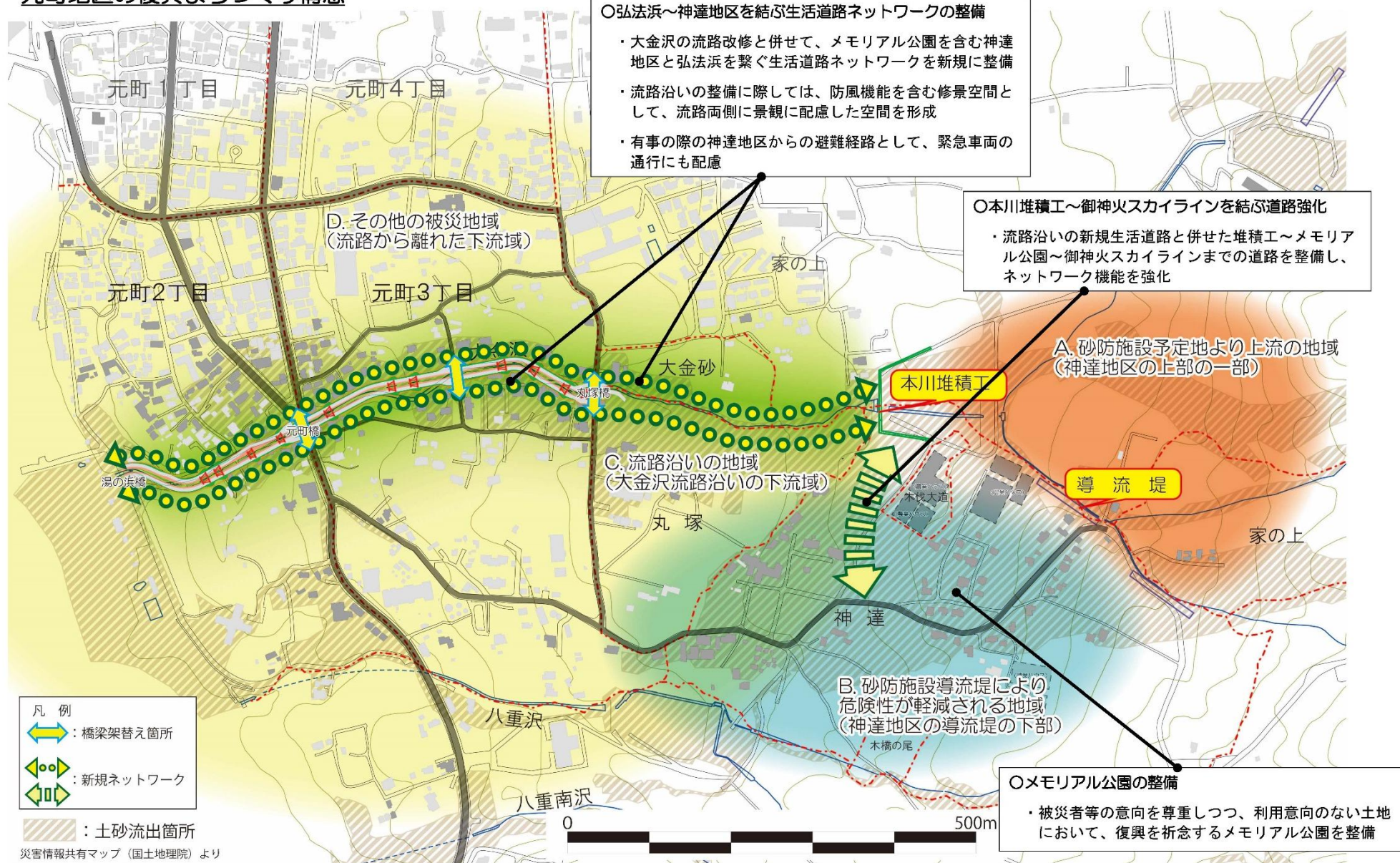
検討テーマ1：復興計画素案について

項 目	主なご意見等
復興の柱1 被災者生活再建支援	・子どもたちへの就学支援は、大学卒業まで継続してほしい。 ・被災者生活再建支援金の支給期間を延伸できるのか。 ・横断的で、ある程度の権限のある職員を配置した実効性ある総合相談窓口としてほしい。
復興の柱2 地域基盤・インフラの 復旧	・浅い層の地下水を考慮した土砂災害対策を検討してほしい。 ・被災者が安心して住める裏づけとなるよう、雨水排水対策を推進してほしい。 ・災害対策はわかりやすく広く住民に周知してほしい。 ・最近発生した土砂災害の教訓も土砂災害対策に反映してほしい。

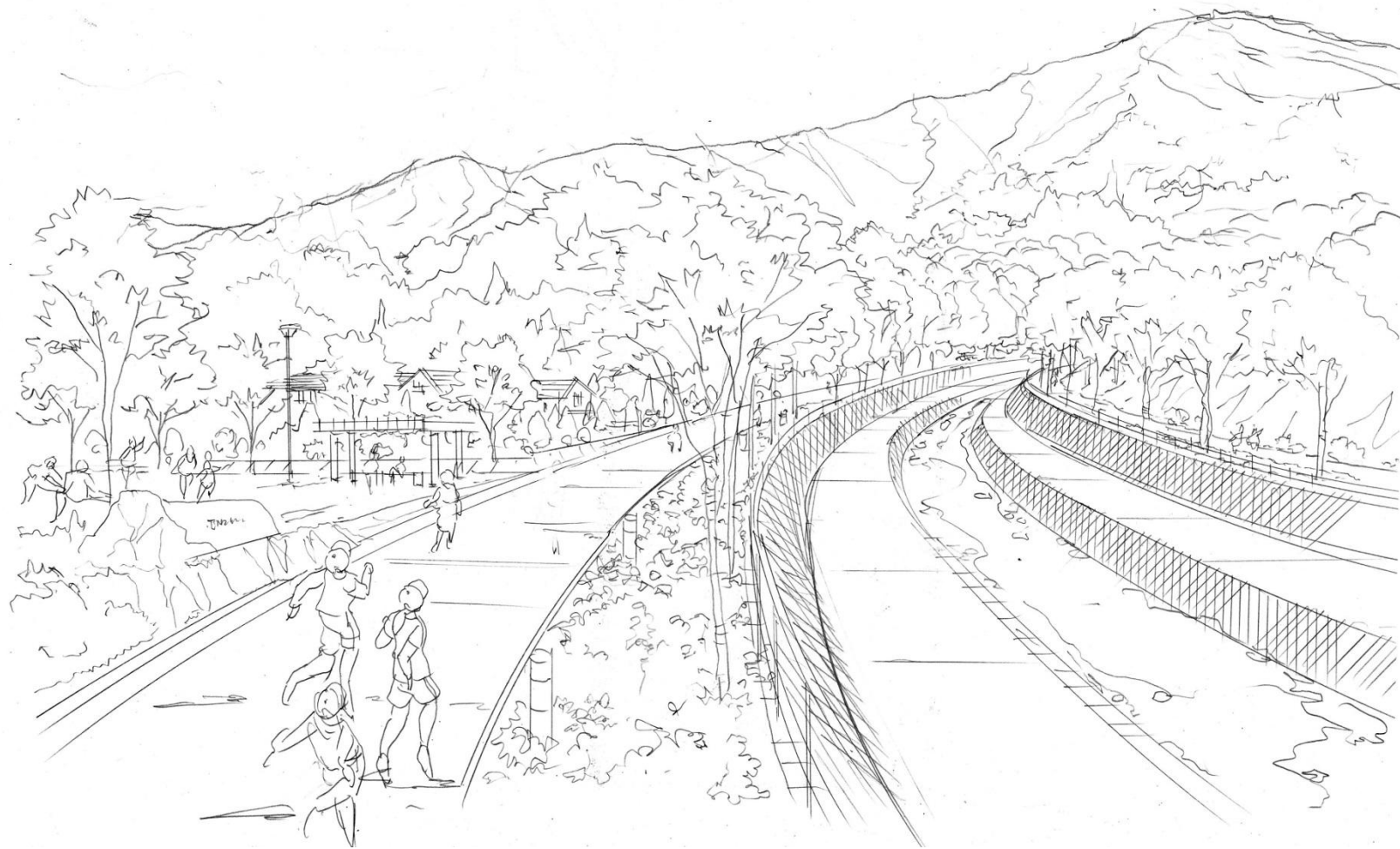
検討テーマ2：元町地区の復興まちづくり計画（B、Cゾーン検討の進め方）について

項 目	主なご意見等
Cゾーン 大金沢流路の改修にあわせ、安心空間の整備と住宅再建を推進する	・住宅再建と密接な関係にある大金沢流路改修のタイムテーブルを教えてほしい。

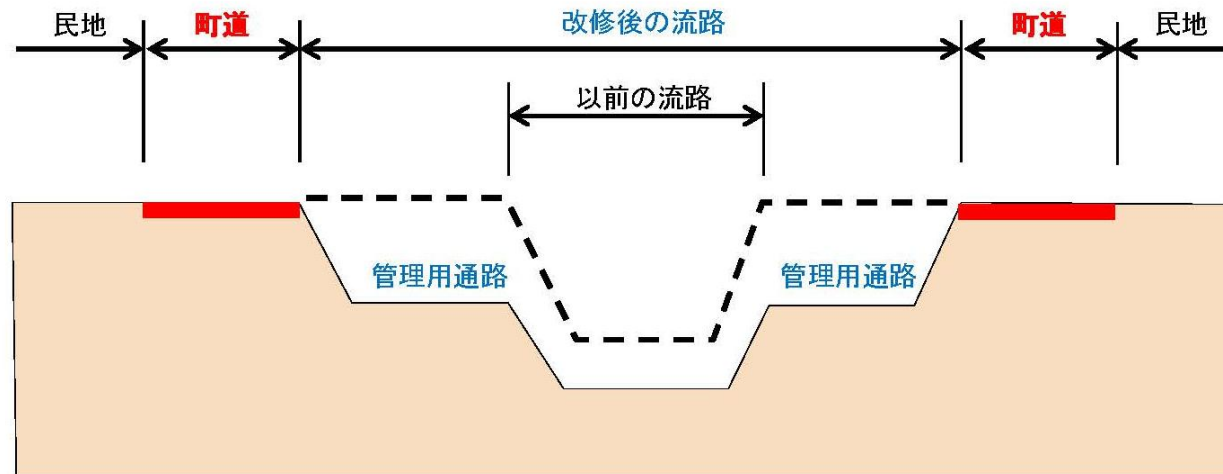
元町地区の復興まちづくり構想







流路改修と町道整備のイメージ



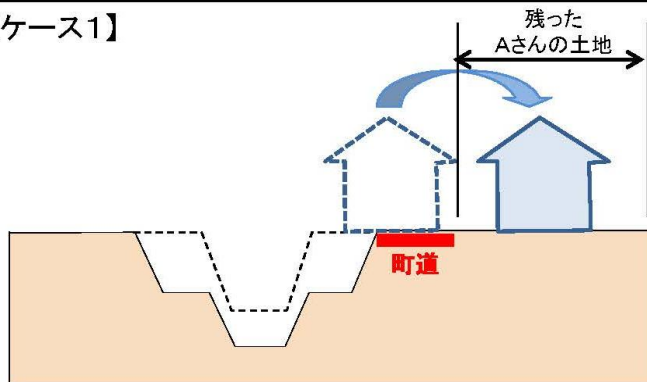
※町道の幅員は4m程度を想定

【町道整備の効果】

- 元町復興のシンボル
- 新たな道路の整備による沿道建物の建築促進（接道できる）
- メモリアルパークにつながる道路として活用
- 散策やランニングなど地域のレクリエーションの場として活用
- 道路ネットワークの充実

町道整備による課題と対応策（案）

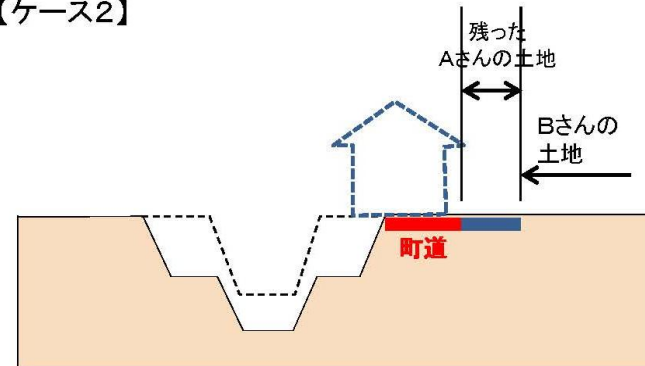
【ケース1】



【課題】
建物が町道にかかる

【解決策】
残地に再建する

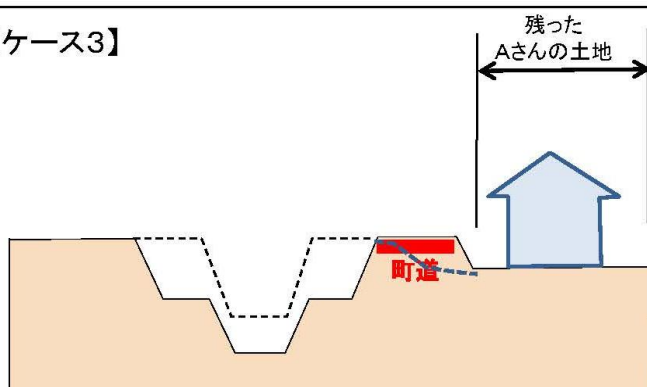
【ケース2】



【課題】
建物が町道にかかる

【解決策】
代替地、公営住宅等

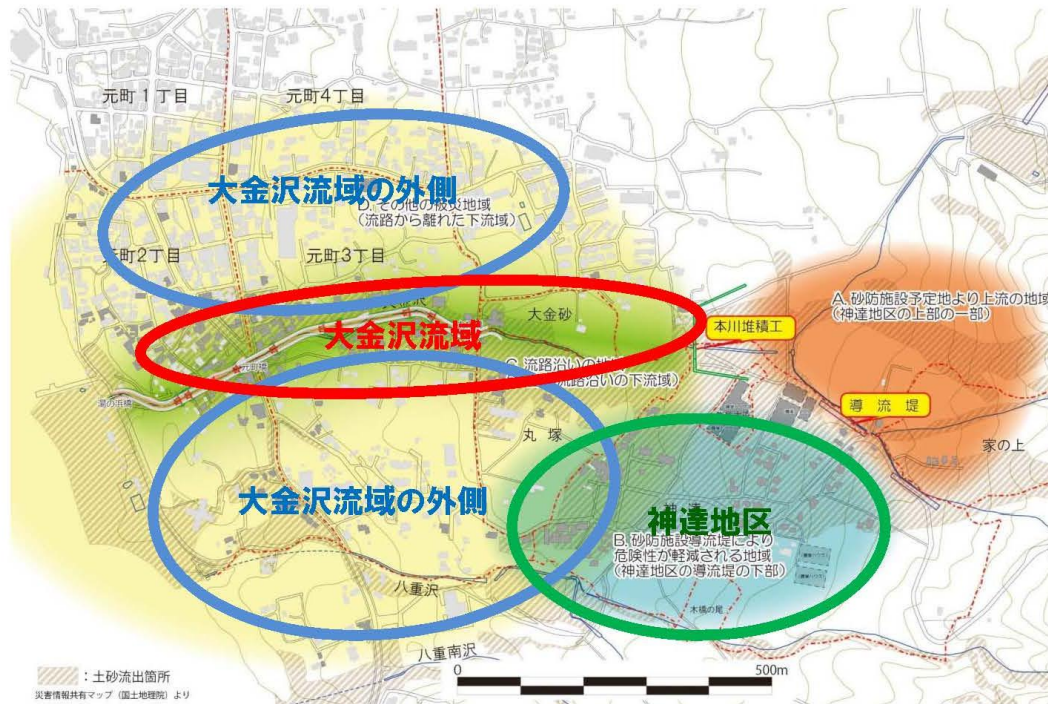
【ケース3】



【課題】
元々流路天端より低い

【解決策】
町道を堤防とする

まちづくりのエリア毎の対応（案）



大金沢流域

（まちづくりの必要性）

- 流路改修にあわせて町道を整備し、速やかに防災性を向上させる必要がある。

（対応）

- 土地境界の復元、土地の買取、代替地の提示、流路・町道整備
- 流路・町道整備のスケジュール明示

大金沢流域の外側

（まちづくりの必要性）

- 通り抜け道路がないなど、もともと地域にあった課題について、合意形成を図りつつ、解決していく必要がある。

（対応）

- 既存道路の改良、雨水排水の改善、通り抜け道路の整備、隅切り改良、街路灯設置、景観のルール化 など

神達地区

（まちづくりの必要性）

- 被災者等の意向を尊重しつつ、土があらわになっている現状を、できる限り早く変えていく必要がある。

（対応）

- メモリアルパークの整備

- いずれのエリアも、被災者等の意向を踏まえ、速やかに対応に着手する。
- 大金沢流域の町道整備は、整備目標を定めて、迅速かつ計画的に実施する。
- 大金沢流域の外側、および、神達地区については、地元の協力を得ながら、まちづくりを進める。

元町地区復興まちづくり分科会（第8回）議事要旨

1. 日時 平成26年9月8日（月） 18:00～19:25

2. 場所 開発総合センター2階 大集会室

3. 議事内容

- (1) 前回分科会における意見交換の確認
- (2) 復興計画案について
- (3) 元町地区の復興まちづくり計画のイメージについて
- (4) 今後のスケジュールについて
- (5) その他

4. 確認事項

○今後の進め方について

- ・大金沢流路沿いの町道整備、神達地区のメモリアル公園整備に向けて、今後、必要な調査を実施して具体的な整備案を検討する。
- ・元町地区の復興まちづくりを推進するための組織をできるだけ早い時期に設置し、具体的な計画案についてご意見を伺いながら進めていく。

5. 主な発言

○復興計画案について

＜復興計画と大島町基本構想・計画との関連性＞

- ・【住民意見】本復興計画の方針などの一部を見直す場合、いつ、誰が、どのように見直しを行うのか。

⇒ 一例として、土砂災害防止法に基づく警戒区域等が指定された段階で避難計画を見直すなど、状況の変化に対応していくことを想定している。現時点では復興計画を見直すことは考えていないが、見直しが必要になった場合は町民のご意見も伺って検討していく。

＜防災まちづくりの強化＞

- ・【住民意見】神達地区はオープンスペースを中心とした土地利用を図る方針となっているが、特別警戒区域は指定されることになるか。

- ・【住民意見】現在、教員住宅を建設しているところも土砂災害の危険箇所となっている。危険性について住民や居住者には周知徹底を図る必要がある。

⇒ 今年度、土砂災害防止法に基づく警戒区域等の指定のための調査を実施し、来年度指定する。特別警戒区域は人家がなくても開発の見込みがあるところには指定することになる。調査結果がまとまった時点で警戒区域等の指定についてはご説明し、町のハザードマップ等でお知らせし、不安の払しょくに努めていく。（大島支庁）

- ・【住民意見】「4-6-1 追悼式の開催」は継続して執り行うか。発災した10月16日を、今後、どのように取り扱っていくか。
⇒ 追悼式は、前期だけでなく中期、後期と何らかの形で継続していく。発災した10月16日は忘れてはならない日として、皆さんのご意見を伺いながら取り扱いを検討していく。

<復興の推進体制>

- ・【住民意見】元町地区における復興まちづくりの推進組織はいつ設置されるのか。
- ・【住民意見】元町地区の復興まちづくりは個別に意見を伺うと、それぞれの意見がうやむやになってしまうことはないか。
⇒ 時期は決定していないが、できるだけ早い時期に設置することを考えている。個別の土地がどのくらい道路にかかるかなど個々の状況が異なるため個別の説明が必要となるが、それとは別に復興まちづくりの推進組織を設置することを考えている。それぞれのご意見をうやむやにすることはなく、きちんと対応していく。

○元地区の復興まちづくり計画について

- ・【住民意見】大金沢流路沿いの町道の幅員はどのくらいか。また、自動車は通行できるのか。
⇒ 幅員4mを想定している。地形的な高低差などもあり、測量など必要な調査を行った上で自動車の通行ができる構造となるかどうか検討し、説明する。
- ・【住民意見】特に町道より宅盤が低くなる場合の町道の安全対策をしっかりと講じてほしい。
⇒ 測量等の調査を行い、設計していく中で安全対策を検討し、個別のご要望を伺いながら対策を講じていく。
- ・【住民意見】具体的な町道整備の実施計画はいつ明らかになるか。
⇒ 大金沢流路の設計は東京都で6月に提示した案をもとに進めているが、町道の計画との摺合せが必要となる。町は9月補正予算で測量等の調査費を確保して検討を進めていく。
- ・【住民意見】「大島らしさを感じられる景観的に優れたまちなみ形成を進める」とあるが、心が和み、災害を思い出してもがんばっていこうと思える景観として整備してほしい。
⇒ 復興のシンボルとなる高質な空間形成をめざしていく。
⇒ ご意見をふまえて景観的にも配慮した流路整備をしていきたい。(大島支庁)
- ・【住民意見】献花台なども復興まちづくりの中で整備してほしい。
⇒ メモリアル公園に設置することを想定している。具体的な事業規模等は今後、決定していく。

以 上